

生野中学校区

義務教育学校開校に向けた説明会



令和2年2月1日（土） @林寺小学校
令和2年2月2日（日） @舎利寺小学校
令和2年2月3日（月） @西生野小学校
令和2年2月4日（火） @生野小学校

学校配置の適正化が求められる背景

1. 児童の学習環境から

小規模校(11学級以下の小学校)の利点と課題

利点

- 学校としてまとまりやすい。
 - ▶ 一人一人に目が行き届きやすい。
- 一人一人の学習状況を把握し、個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい。

課題

- 教育活動の幅が狭くなる
 - ▶ 音楽の合唱や、体育の集団競技などは困難な場合もある。
- 互いに切磋琢磨する機会が少なくなる
 - ▶ 運動会でのリレー、ドッジボール等の球技大会などにおいて、クラス対抗ができない。授業の中で多様な発言が引き出しにくくなる。
- クラス替えができないことから、人間関係が固定化する傾向にある。
- 教職員数も少なくなり、学年運営に関して同学年担当教員による学年共通の指導方法の高め合いができない。
など。

新たな学習指導要領の全面実施から

◆子ども同士の協同、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

◆何ができるようになるかを明確にした社会に開かれた教育課程の編制

子どもたちが多様な人間関係を構築する環境を意図的に創出

教科横断的なカリキュラムの検討や一部教科担任制の導入が可能な教職員組織の構築

学校配置の適正化が求められる背景

2 教職員組織面から



小学校教諭(約5,500人)

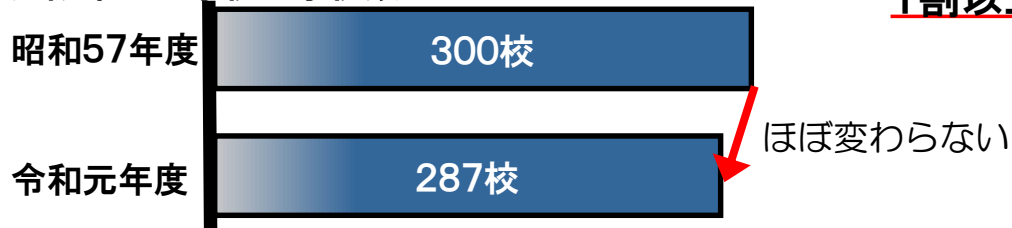


児童数の減少による小学校の小規模化

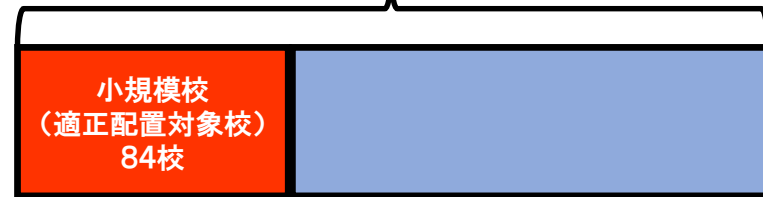
大阪市立小学校の児童数



大阪市立小学校の学校数



小学校(287校)



小学校の約3割が小規模校化
1割以上の学校が全学年単学級

全国的な教員不足の状況のもと、初任者を単学級に配置せざる負えない状況に・・・

各学年2学級以上の規模として、経験年数のバランスを考慮した教職員配置
初任者は経験ある教員と学年運営を担うことで、資質の向上を図る

生野区の現状（児童数の減少による小学校の小規模化）

1 生野区全体の状況

生野区内の大阪市立小学校の児童数



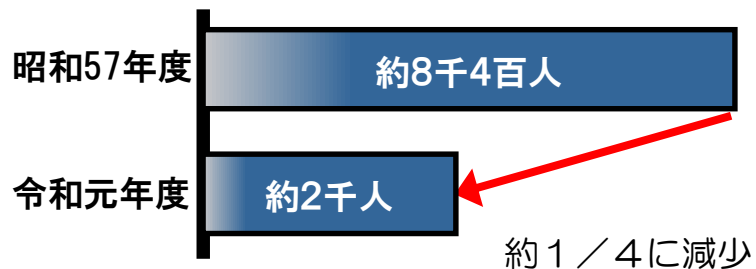
生野区内の大阪市立小学校の学校数



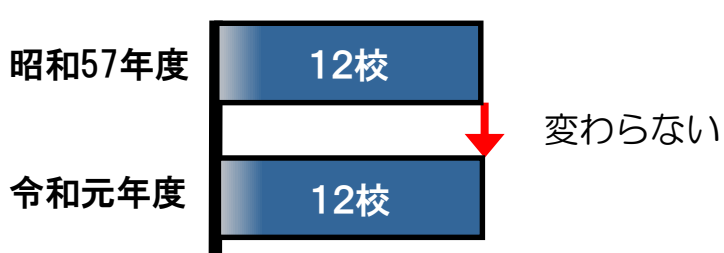
小学校の小規模化が大阪市の平均よりさらに進行しています。

2 生野区西部地域の状況

生野区西部地域の大阪市立小学校の児童数

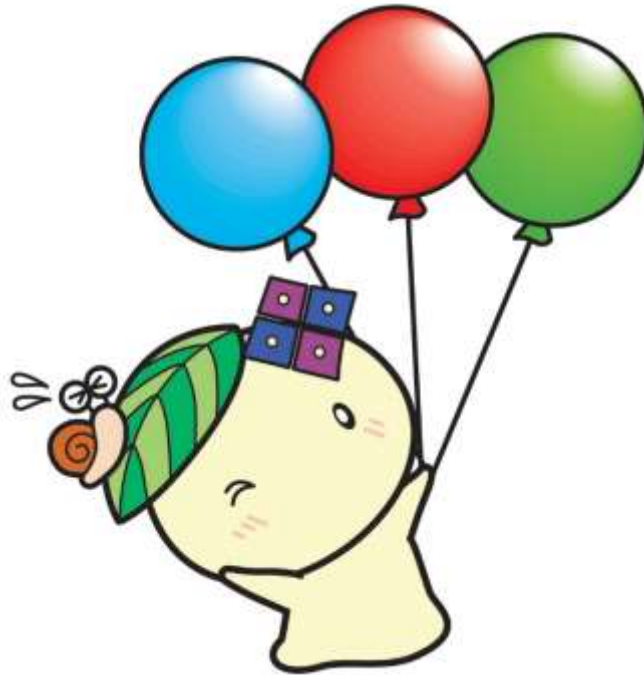


生野区西部地域の大阪市立小学校の学校数



大阪市、生野区全体よりも児童数が減少しており、小学校の小規模化がさらに進行しています。

生野中学校区の学校再編



生野中学校区の新たな学校の配置



 新たな学校（義務教育学校）の
施設として活用

生野中

林寺小

生野小

舍利寺小

西生野小

義務教育学校

生野中学校と西生野小学校の
校地を活用

新校区の通学距離

（最長）

林寺小学校区	約 1.4 km
生野小学校区	約 1.1 km
舍利寺小学校区	約 1.6 km
西生野小学校区	約 0.6 km

新たな学校の児童生徒数見込み

R1.5.1現在の児童生徒数

中学校	生野中	
	男子	女子
3年	60人	44人
2年	47人	45人
1年	53人	31人

小学校	林寺小		生野小		舍利寺小		西生野小	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
6年	8人	8人	16人	8人	20人	24人	11人	9人
5年	7人	8人	17人	11人	14人	13人	8人	4人
4年	6人	13人	18人	17人	16人	18人	10人	3人
3年	7人	4人	18人	12人	17人	12人	3人	13人
2年	7人	10人	19人	10人	12人	15人	13人	8人
1年	11人	12人	13人	23人	14人	16人	4人	6人

新たな学校の児童生徒数見込み

R4年度以降の児童生徒数見込み

	R4	R5	R6	R7
9年	84人	67人	83人	71人
8年	67人	83人	71人	78人
7年	83人	71人	78人	82人
6年	78人	86人	91人	98人
5年	87人	92人	99人	85人
4年	92人	99人	85人	95人
3年	99人	85人	95人	76人
2年	85人	95人	76人	90人
1年	96人	76人	90人	90人

※R1.5.1現在の児童生徒数をもとに推計

ただし、舍利寺小学校から進学する児童を過去実績の平均率より
生野中学校へは75%、大池中学校へは25%を進学率として算定

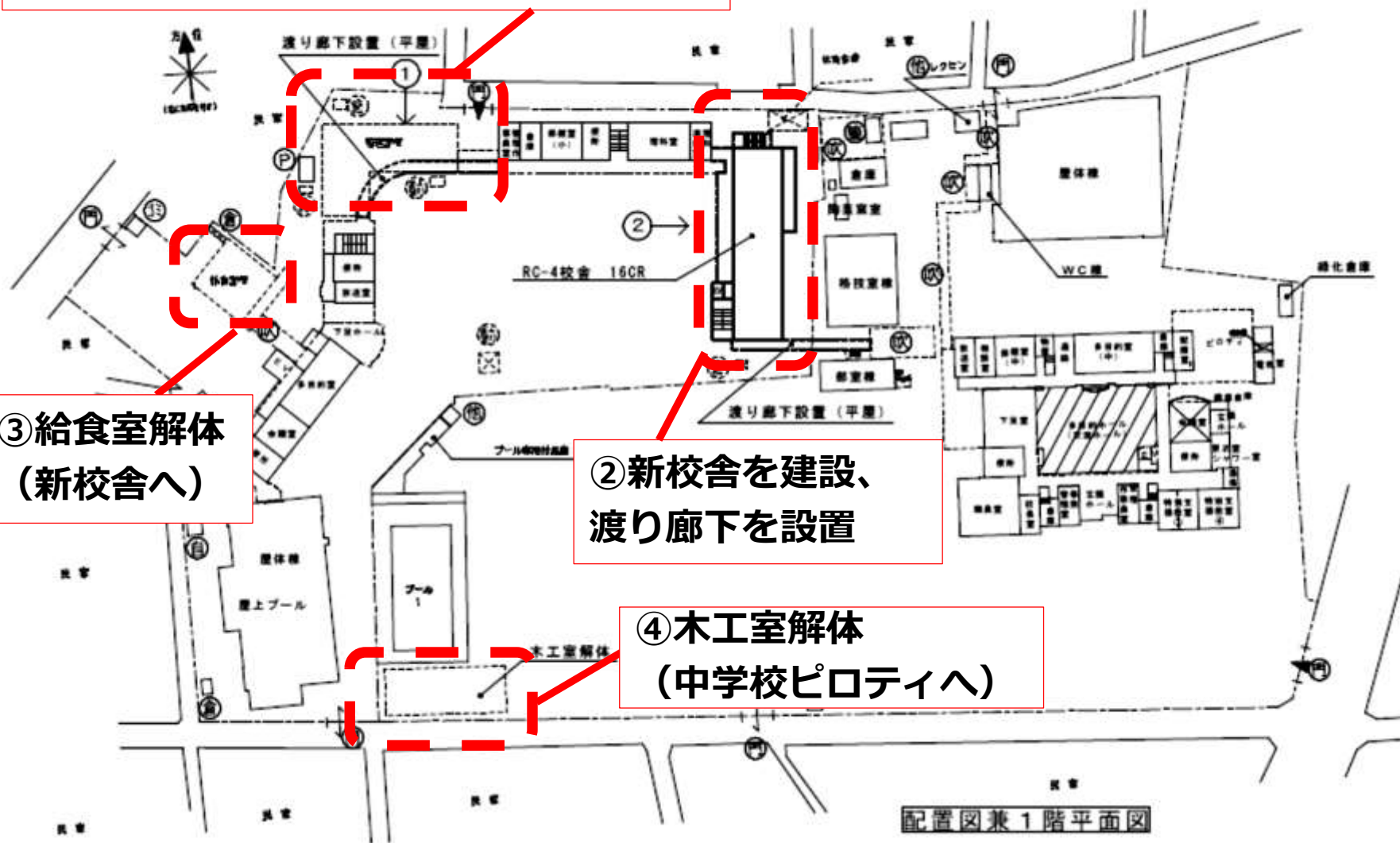
新たな学校開校に向けた施設整備

①校舎の一部を解体、渡り廊下を設置
学習園・ビオトープ整備予定

③給食室解体
(新校舎へ)

②新校舎を建設、
渡り廊下を設置

④木工室解体
(中学校ピロティへ)



施設整備のスケジュール



- ・ 児童・生徒の活動に配慮するため、工事開始前から工事が完了するまで、西生野小学校・生野中学校と工事関係者、大阪市が、連携・協議を図りながら工事を進めます。
- ・ 例えば、授業参観やテスト期間中の大きな音がする工事時間をずらすなど配慮します。
- ・ また、運動場の利用が制限されるなど、工事による影響等については、今後の協議会等の場で、詳細な工事スケジュールや学校運営について説明していきます。

